

今月のお題は「赦し」です。アメリカでお世話になったレミントン先生は、スバル車を「SUBARU、That's the best! (スバルが一番!)」とお気に入り何台も続けてご愛用でした。ちょうど乗り換えたばかりの新車が盗難に遭い、一週間ほどたって遠く離れたところで無残なボロボロ状態で発見され、若い男が逮捕されました。大きな被害にも関わらず保険適用は最低限の修理代のみだったそうです。先生は当時専門分野では全米トップクラスで、講義は校則上存在しない朝の7時40分から始まり、文句を言う学生には「犯罪者はいつでも働いている！」と一喝し、連邦政府と各機関からのご相談にいつも電話や出張で対応されていました。教え子には大統領を辞任に追い込んだ検察官をはじめエリート法曹が数多くおり、恩師の愛車が盗まれたと担当検察官や裁判官までもが怒り、「懲役150年!!」という恐ろしい話が出る中、当の被害者であるレミントン先生は彼らをなだめてまわり、「まだ若いからなんとかかしてやってくれ」と、本来だったら「前科+悪質な窃盗・器物損壊」で、執行猶予も絶対つかないような事例であったにも関わらず、なんと「不起訴」でおとがめ無しにしてみました。その後も犯人に仕事を世話してくれるよう知人に頼み、まっとうな社会人になるよう面倒をみておられたそうです。

このように偉大な先生の下で自他ともに認める「最不出来」の私は、先生へのオマージュとして当然にスバルを選んでおり、これにさえ乗っていれば彼のような慈愛に満ちた赦しができる人間になれるのではないかと夢見ています。もちろんスバルに何の保証があるわけでもなく、ハンドルを握って「もし盗まれてボコボコにされたら」と考えると「赦せる自信なし!」といつまでたっても成長しないことを実感し、日々自戒しています。

さくらでも子ども達が毎日のように赦しを学んでいます。勢いでおもちゃをとってしまったり、ぶつかってしまったりと様々な場面があり、間違ってしまった園児は先生からお話ししてもらって「ごめんなさい」をし、それを受けた園児はにっこり笑って「赦して」います。幼い子らがその後何事もなかったように楽しく一緒に遊んでいる姿は感動的ですが、それも赦し・赦されのプロセスがあったからこそだと思います。時間と手間がかかってもこうした大事なことをきちんとし続けてゆくことが幼児期の大事な教育だとさくら一同は信じています。何もかも「生まれて初めて」のおさな児達が将来どのように育ってゆくかは私たち大人の努力次第です。どうぞご一緒をお願いいたします。

園長 山内 香幸